

採択審査にかかる業務について

1 補助事業の公募における採択審査の種類について

補助事業の公募における審査は、中小企業等の売上拡大や生産性向上を後押しするために、公募申請事業者の経営戦略の方向性、付加価値額の向上や賃上げ等の実現可能性、補助事業としての妥当性等の審査観点をもって、以下の審査を実施しています。

(1) 要件審査 補助事業等の基本要件の充足を確認するもの

(2) 事業計画審査 提出された事業計画の蓋然性を評価するもの

① 書面審査 提出された書面で行う審査

② 口頭（対面）審査 一定の事業者に対し、事業計画の内容について質問し、回答内容を踏まえて行う審査

(3) その他の審査 加点・減点項目等の該当を確認するもの

※補助事業の公募における審査は、各種外部機関と連携して行う場合があります。

2 採択審査業務において求められる視点

補助事業が申請する中小企業等の売上拡大や生産性向上に寄与し、付加価値額を向上させ、従業員の賃上げが達成できるかがポイントであり、申請する事業計画の実現可能性をいかに見極めるかが重要となります。

また、最近の傾向として、賃上げ要件の未達成や補助事業で取得した処分制限財産を補助目的以外で利用する等により、補助金返還を求めた事案も多く発生しています。

これらのケースは、申請された事業計画が事業者の経営戦略の中で有効なものとなっていない、事業に必要な経営リソースや事前準備が不足している、補助金申請をサポートする者に任せて補助事業の内容を理解していない等に起因すると考えられることからの的確な審査が求められます。

また、過去に複数の補助金を活用したことがある事業者については、補助事業の成果が現在の経営戦略に活かされているのかについても評価に加えていくことも重要となります。

3 採択審査における審査観点

2に記載の現状を踏まえ、本事業における採択審査においては、1に示す他補助金における既存の審査観点に加え、以下のような審査観点をもって評価することが重要です。

なお、これ以外の審査観点がある場合は、別途提案してください。

(1) 事業者の経営戦略と補助事業との関係性

補助事業が申請事業者の経営戦略に沿ったものとなっており、賃上げ等に結びつくものとなっているか。

(2) これまで活用した補助事業との整合性等

過去（5年程度）に補助金（ものづくり補助金、事業再構築補助金、省力化補助金（一般型）、新事業進出補助金等）を活用している場合は、当該補助金の事業計画等との整合性がとれているか。

また、補助金の事業化状況から補助金が有効的に活用されているか。

※ 過去の補助金の事業計画等については、将来的（第2回申請を想定）にAPIによるデータ連携

を予定していますが、当面の間は事業者から取得し、審査に活用することを想定しています。

(3) 申請事業者の経営指標（トラックレコード）等の評価

申請事業者の過去（3年程度）の経営指標や人材育成、先行投資等の定性的な取組から判断して、補助事業実施のために十分なものとなっているか。

4 審査の方法の提案について

3.採択審査における審査観点を踏まえ、申請内容を評価し、適切に採択候補を選定するための審査方法を、以下を参考に提案すること。

なお、提案にあたっては、実施体制面・システム面・運用面等はもちろんのこと、大量の申請書を迅速かつ効率的に審査しつつ、審査の質を担保するために専門的知見を活用する等、具体的な提案を行うこと。提案された内容の実施可否・時期等については、協議して進めていくものとします。

(1) 事業者の経営戦略と補助事業との関係性の観点

・補助事業の計画が事業者の経営戦略に沿ったものとなっているのか確認するため、事業者の経営戦略を具体的に記載させる入力フォームを設け、事業計画との整合性を確認する 等

(2) これまで活用した補助事業との整合性等の観点

・事業計画に加え、申請者や機構が提供する経営データ等（例：他補助金（ものづくり補助金、事業再構築補助金、省力化補助金（一般型）、新事業進出補助金等）の申請書、事業化状況報告書等）をインプットし、AIの活用やAPIによる連携等も見据えながら、過去の取組状況と今回の事業計画との整合性等、実現可能性に懸念がある事業計画がある場合にはアラートを出すことで、審査員の気づきを促す 等

・他補助金のデータを用いて生成AIを活用することにより事業計画の質的な内容の審査をアシストする 等

(3) 申請事業者の経営指標（トラックレコード）の評価の観点

・申請事業者に過去（3年程度）の経営状況を入力させることで、ROIやIRRなどの経営指標や借入金額・補助金額の妥当性等を自動で算出できる仕組みを構築し、定量的な評価の基準とする等